

<p>1 学校教育目標</p> <p>「HEART」、「POWER」、「CHALLENGE」 一あたたく 力強く 目標にチャレンジする子どもの育成ー 【心をひとつに「チーム成和」】</p> <p>せ…清潔で笑顔あふれる学校 い…生き生きとして活気のある学校 わ…分かるまで共に学び合う学校</p> <p>せ…積極的に人と関わり、自分を表現できることも い…意欲を持ってのりこえる、心身ともに強い子 わ…分かるまで挑戦し、自分を高めようとする子</p> <p>せ…誠実に教育に向き合う教師 い…いちずな思いで粘り強く取り組む教師 わ…和を大切にしながら子どもを伸ばす教師</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 学力向上 「やってみる・よく見る・よく聞く・よく考える」 ① 学習意欲を向上させ、活用力を向上させる授業づくり（毎時間の充実） ② 授業規律を徹底 ③ 学年で身につけさせたい力と方策の共通理解と共通実践</p> <p>(2) 不登校をなくす取り組み 「早期発見と組織的な対応」 ① 不登校及び不登校傾向の早期発見 ② 不登校・遅刻傾向児童の個別状況の把握 ③ 家庭への支援と個別指導</p> <p>(3) 豊かな心とコミュニケーション力の育成 ① 道徳授業を中心とした個々の教育 ② 特別活動による自主的実践の態度・仲間と自分を大切にする態度の育成 ③ 体験活動・JRC活動による、地域を大切にする態度の育成</p> <p>(4) 生活指導の徹底 「はじめをつける 時・場所・場合」 ① 人間関係の基礎づくり ② 生活規律の徹底 ③ 児童理解連絡会をいかした指導</p>
---	---

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である



3 目標・評価							
① 学力向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	○学校教育目標・経営ビジョン、本年度の重点目標の周知	○学校教育目標を知っている児童や保護者の割合を90%以上にする。	①全校集会、入学式等の話や掲示物による説明 ②学校便りによる広報 ③ホームページを更新できる体制を整備し、定期的な更新に努める。 ④はなまる連絡帳を有効活用し、効果的な情報発信を目指す。	A	◎学校目標の周知については、校長の話だけではなく、各部や各学年で啓発する事ができた。児童についてはほぼ100%認知されている。 ◎地域への広報は、学校便りの定期的な配布、各種会議での報告によって、内容に目標を盛り込んできた。 ◎学校目標の認知度については、学校だよりやはなまる連絡等で発信してきた結果、保護者の認知は91%以上であった。	◇ホームページについては、現在新システムへの更新を行っており、保護者等閲覧者のニーズを探りながら、掲載する内容等の更新を進めていく。最新情報については、即時更新できるような体制づくりを次年度も継続していく。 ◇はなまる連絡帳については、情報伝達の徹底を図るために、100%の登録を目指して保護者に周知していく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○重点目標の焦点化による学年・学級経営の充実と業務のスリム化 ○教職員全体の働き方に関する意識改革	○学級経営案の作成において、重点的な目標を明確に示し、その達成のための取組みも優先順位をつけ、焦点化する。 ○勤務時間を意識した業務の整理と効率化を全職員で臨む。前年度の時間外勤務時間（週当たり）の平均2時間を下回るように目指す。	①重点目標にそって、業務の重点を明確にすることを意識していく。PDCAサイクルを取り入れ、業務の改善を行っていく。 ②人事評価表を活用し、個人の取組目標と具体的方策を明確にし、時間外勤務の削減に取り組む。 ③平時の退勤時刻定時を設定すると共に定時退勤日の徹底を図る。 ④業務記録表の結果を職員に示し、勤務時間を意識した職務遂行を促す。 ⑤業務改善のための職員研修に取り組む。	B	◎業務のスリム化の一環として、「優先順位をつけた業務の取組」「勤務時間を意識した業務の取組」を合言葉に進め、職員の意識高揚に努めることができた。 ◎教育評価活動の効率化、業務削減の視点で、職員間で意見交換を行い、次年度の通知表の回数減らしたり、書式を変更したりする等の計画を進めてきた。 ◎月あたりの超過勤務の上限45時間を努力目標として、職員に意識化を図ってきたことで、超過勤務時数の削減につながっている。 ◎勤務時間の意識化、業務の整理と効率化については、十分達成、おおむね達成の比率は、前年比プラス22%と上昇している。 ▲勤務時間の意識化、業務の整理と効率化については、不十分と回答した比率は48%であり、次年度に向けて更に具体的な取り組みが必要である。	◇教育の質の低下を防ぐ工夫をしながら、学校行事や教育活動の精選を進めていく。 ◇学校目標における重点項目と人事評価の職員個々の取組目標をリンクさせ、組織的、系統的な視点で業務改善に取り組んでいく。 ◇「定時退勤日」の完全実施に取り組む。 ◇職員の月当たりの超過勤務上限時数45時間の定着に向けて、意識化を図り、業務の改善に努める。 ◇電話対応を含め、保護者及び外部との対応時間についての一定の基準を設定する。
教育	●志を高める教育	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○成和小の合言葉『ハート』『パワー』『チャレンジ』の児童の認知の割合を95%以上にする。	①教師は、学校行事をはじめとする様々な教育活動における指導場面で、『ハート』『パワー』『チャレンジ』と関連付けた支援・指導を行う。 ②児童には、学校行事をはじめとする様々な教育活動における指導場面で、『ハート』『パワー』『チャレンジ』を意識した行動目標を持たせるように支援・指導を行う。	A	◎『ハート』『パワー』『チャレンジ』を学校目標として認知している児童の比率は98%と高い。また、成和小学校の学校目標としてふさわしいと実感している児童も98%で、教育活動全体を通して、学校目標を意識化した実践が成果を上げていることがわかる。 ◎日頃の指導場面で学校目標を意識して実践している職員は95%と高く、教育目標の共有化・実践化を図ることができている。	◇キャリア教育の視点に立って、児童が自らの夢や目標と日常の学習や生活とを結びつける「キャリアパスポート」の取り組みを推進していく。
		○「主体的・対話的で深い学び」の推進	○パーソナル、グループ、クラスワークの実践と思考力・表現力の向上を図る。 ○学校評価アンケート（教職員）の項目に「話し合い活動の充実」を設定し、達成率85%を目指す。	①話し合い活動の充実と思考力・表現力の向上をめざした授業実践・「伝え合い」から「考えを深め合う」へ・・・発達段階に応じたモデル提示 ②これまでの研究成果（授業の進め方、汎用ファイルの活用、話し合いの進め方等）を生かした授業づくりの推進を図る。また、他教科でも生かしてい	A	◎児童の対話力を高める授業実践の取組に関する結果（教職員）は94%であり、教職員の意識の高さと実践の徹底がうかがえる。 ◎今年度も、ワークショップ型式の小グループによる研究協議会を行うことで、活発な意見交流ができた。また、職員それぞれが抱えている課題や問題点に即した協議を行うことができた。 ◎校内研究で道徳教育に取り組む、主体的に考え、他者と進んで対話する力を育むことができた。	◇これまで取組んできた道徳教育の土台を生かしながら、他教科等においても「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る取り組みを実践する。 ◇新学習指導要領の完全実施に伴い、新たな評価の視点に立った教育活動の実践を進める。

活動	●学力の向上	○指導方法の工夫改善と、学力向上アクションプランの実践	○TTや少人数授業による指導を充実させる。 ・算数TTアンケートで、意識面のプラス評価を85%以上、理解面のプラス評価を90%以上にする。 ○実践を振り返り、授業改善を図る。	①効果的な個別指導やきめ細かな学習のための学習形態を実践する。 ②授業チェックを実践し、児童の意欲を高める工夫を行う。	A	◎T1、T2の役割を明確にしながら授業を進めることで、全体指導、個別指導を効果的に進められた。 ◎算数TTアンケートのプラス評価は、意欲面86%、理解面93%と高く、達成できたと言える。 ◎単元によって少人数指導とTT指導を取り入れることにより、児童が意欲をもって学習に取り組んだ。	◇年間指導計画の見直しを行い、各学年の児童の実態を考慮して、TT授業と少人数授業の効果的な実施計画を立て、指導方法の工夫改善を図る。
		○学習規律の指導と家庭学習の奨励	○全校で取り組む学習規律を設定する。 ○家庭学習のすすめを実践させる。 ○本校の「家庭学習のすすめ」と県作成の「家庭学習の手引き」を懇談会や家庭訪問で周知する。	①授業の約束事を決め、徹底して守るよう指導する。 ②「家庭学習のすすめ」、「家庭学習の手引き」を配付し、家庭で実践できるよう啓発を繰り返し行う。 ③職員間で効果的な家庭学習の取り組み方法等を情報交換し共有化を図り実践する。	A	◎学習や清掃活動の始めと終わりに「立腰」を取り入れ、定着している。教職員アンケートでも100%の結果で、徹底されている。落ち着いた態度で授業を始めることができてきた。 ◎学習規律について共通項目を設定し、全校的な取組として進めることができた。定期的に振り返りさせることで「継続」と「徹底」がなされた。 ▲家庭学習や自主学習についての啓発は進めているものの、取組については差が大きい。また、家庭学習の時間が各学年の目安とする時間に達していない割合が高学年になるほど高くなっていて今後の課題である。	◇全校で統一した方針で実践を図る。 ◇家庭への一層の啓蒙を図る。(具体的な学習のポイントやモデルを示す。)

② 不登校をなくす取り組み

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○不登校及び不登校傾向の児童の実態把握と早期対応	○不登校及び不登校傾向児童の早期発見と早期対応	○不登校傾向児童を早期発見する。 ○不登校児童の対応を協働で行う。	①欠席が続く児童を把握する。 欠席一覧表の活用 ②本人にとっての、困り感や不安を取り除く。 ③必要に応じてケース会議を開き、情報の整理・分析及び効果的な対応について検討する。 ④教職員が連携して組織で対応すると共に、関係専門機関との連携を図る。	B	◎具体的方策に則り、取り組みを進めてきた。欠席が続く児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、欠席の理由を把握してきた。 ◎担任任せにせず支援会議を開催した。学校として、家庭と本人、スクールカウンセラーなどからの情報を共有し、解決に向けての対応策を取り組んできた。 ▲不登校傾向児童の増加に対応するための職員の人材確保や具体的な対策を検討するための支援会議の時間確保、外部機関との効果的な連携の在り方等については、今後の大きな課題である。	◇個別の支援シートを基に、職員間の情報交換を図り、効率的で組織的な対応を進め、効果的な支援を進めていく。 ◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや支援センターなど、関係機関と密な関係を保ち、ケースに応じて有効活用を図る。 ◇効率的な組織対応を進めるために、校内のコーディネート機能を高める。

③ 豊かな心とコミュニケーション力の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
	●心の教育	○豊かな心を育む道徳教育の充実	○教科化にあわせて道徳年間指導計画を整理し、計画的に実践する。 ○授業研究会を通して、「お互いの思いを伝え合う授業づくり」の在り方を探る。 ○道徳意識調査の各項目について、前年度比+1%以上を目指す。	①全学級が保護者や地域の方へ道徳の時間の授業公開を行う。 ②学年グループにおける授業研究および講師招聘による全校授業研究会を実施する。 ③道徳教育に関する研修を実施する。 ④教育活動全体に道徳教育を反映させるよう、カリキュラムの策定を推進する。	A	◎全学級、参観日における道徳の公開授業を行うことができた。 ◎「九州地区小学校道徳教育研究大会」の授業公開校として、これまでの道徳教育の取り組みを公開し高い評価を得ることができた。 ◎校内研究において、全職員で研究授業に取り組み、講師の指導助言を受けながら、全校体制で道徳教育を実践することができた。 ◎これまで校内研究で継続して道徳教育に取り組んできたことで、12月の道徳意識調査では、自尊感情についての肯定的意見は80.6%と高い自己評価となった。	◇これまでの道徳教育で築いてきた成果と基礎を生かし、豊かな心を育むための道徳授業の実践を継続する。 ◇新学習指導要領の主旨を踏まえて、道徳教育全体計画を策定し、道徳教育の充実を図る。

教育活動	●いじめ問題への対応	○いじめの防止と早期発見・早期対応に向けた体制づくり	○定期的なアンケートや調査により、児童の状況を把握する。 ○教育相談体制を整え、スクールカウンセラーや保護者との連携を図る。	①いじめに関するアンケートを年2回実施し、状況把握に努め、組織で早期対応にあたる。 ②「いじめ」についての認識を深める授業に取り組む。 ③実践的な教職員の校内研修を長期休業中に実施する。 ④職員間でいじめの定義及び覚知・認知についての共通理解を図ると共に、事案発生時は、速やかな対応と事後指導ができる体制づくりを進める。 ⑤いつでも相談できる体制を、児童や保護者に周知する。	B	◎児童のいじめの実態を把握するためアンケートを年2回の実施し、いじめに発展する前に、注意・指導を行い、いじめ防止を進めてきた。 ◎いじめの疑いがあった場合は、本人・家庭・加害者（仮）に事実確認し、お互いの気持ちを理解させながら解決を図った。対応は生活主任を中心に複数で対応することに努め、児童が安心して話ができようにしてきた。また、継続しながら観察し、再発防止に努めることができた。 ◎人権担当者、道徳推進教師、生徒指導担当と協力しながら「いじめ防止」教育を進めてきた。	◇児童の実態を定期的にアンケートで把握し、早期対応を進めていく。 ◇アンケート以外でも日常の児童観察を大切に、気になることがあれば、学年、教育相談担当、生活指導担当、管理職等に相談する体制を強化する。 ◇「未然防止」「早期発見」について認識と対応を深める職員研修を計画する。
	○体験学習	○農業体験による郷土理解	○5年生において、米作りを中心とした体験学習を行い、地域の農業について理解を深めると共に、郷土に愛着や誇りを持たせる。 ○主体的に活動できる機会を増やし、主体性を身につけさせる。	①田植えや稲刈り体験等での気づきをワークシートにまとめる活動をとおして、地域の農業についての理解を図る。 ②収穫した米を使った調理実習を通して「唐津」のよさを実感させる。 ③米づくり体験学習が主体的に活動できるように、カリキュラムの工夫改善を図る。	A	◎もみ撒き、田植え、稲刈り体験を通し、農業に携わる人々の仕事内容や仕事に対する思い、お米の大切さに気づき、新聞形式にまとめることができた。また、保護者、地域の方といっしょにしめ縄づくりに取り組み、伝統を理解しながら親睦を図ることができた。 ◎収穫米を使った調理実習を行い、自分たちが手掛けた米のおいしさを実感することができた。また、お世話になった方々を招待し、感謝の気持ちを伝えることができた。 ◎地域の方々と協働するよい機会となり、地域の農業について理解を深めることができた。また、地域の方に支えてもらっていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。	◇米づくり体験学習が主体的に活動できるように、カリキュラムを工夫改善していく。 ◇「唐津のよさ」を実感させるために、地域の方々との触れ合いや地域の農業についての理解などを進める。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教	●健康・体づくり	○運動に親しむ児童の育成	○体育の授業や体育的行事を工夫する。 ○体力づくり週間を設定し、進んで水泳や持久走・なわとびに取り組めるようにする。	①体育の授業で、運動の特性に触れさせるための場の工夫、学習意欲を高めるための学習カードの活用に取り組む。 ②外遊びの奨励と環境作り ③夏季休業中の水泳教室の実施 ④水泳記録会や持久走大会、縄跳び大会の実施（縄跳び大会は縦割り活動として行う。）	A	◎学習カードの活用によって「めあて→活動→評価」が定着している。体育学習が楽しいと感じる児童が多い。(96%) ◎朝の時間や昼休みには、元気に運動場で遊ぶ児童が多い。 ◎地域人材を活用した水泳指導が実施できた。 ◎水泳大会、縄跳び大会、持久走大会等運動に親しむ取り組みができた。	◇体育の授業で、身につけさせたい力を明確にし、運動の特性（運動の楽しさ）に十分に触れさせる内容や場の工夫をしていく。 ◇体力づくり週間をさらに充実させていく。児童が意欲的に参加できるようカード等の活用を図る。 ◇外遊びを奨励する環境づくりを進めると共に、児童外遊びや運動に親しむ時間を増やすための取り組みを進める。
		○食育の充実	○望ましい食習慣を身につけさせる。	①給食時間の指導を充実する。（リアルタイムでの指導、全校で共通した指導） ②行事食・誕生給食・給食週間等の実施、健康調査を行い児童の実態を把握する。 ③年度当初にアレルギー等特別な配慮を要する児童についての共通理解を図り、年間通じての対応について全職員で確認する。 ④食育の授業を実践する。	A	◎アレルギー対応の研修を年度当初に実施し、職員間の共通理解のもと、新年度をスタートすることができた。 ◎給食の時間に栄養教諭を中心に食の指導を毎日行った。食事のマナーや食べ方が身についてきた。また、月1回の献立委員会では、給食室とも情報交換をしながら給食指導の充実を図っていくことができた。 ◎給食委員会の取組や給食週間の取り組みなどに児童が意欲的に取り組んだ。 ◎食物アレルギーに対する保護者への調査、発生時の対応、職員への周知、対応についての研修など万々に備えた整備ができた。	◇食物アレルギー等発症時の緊急対応について、年度当初に研修を実施し万一の対処に備える。

育活動	○特別支援教育	○特別支援教育の推進	○特別な支援を必要とする児童への支援体制を確立する。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と支援を実践する。 ○保護者や児童に対する特別支援教育に関する理解を深める。	①ひとりひとりに応じた支援を実践する。 ②職員研修を実施し、職員のスキルアップを図る。 ③保護者や専門機関と連携しながら、必要な支援を行う。 ④ケース会議を開き、具体的な支援の方法を検討し推進する。 ⑤特別支援教育に関する情報を発信し（児童、保護者）、理解を深める。	A	○個別の教育支援計画を作成し、ひとり一人の特性に合った指導を進めてきた。 ○特別支援教育研修会を開催し、支援の必要な児童への対応についてスキルアップを図った。 ○特別支援教育コーディネーターと担任が協力しながら保護者への理解を促していくことができた。 ○保護者の相談等にも特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任を中心に丁寧な対応を行うことができた。	◇特別支援教育コーディネーターを中心に、級外職員、生活支援員等の支援体制を充実させる。そのために、定期的な情報交換の場を短時間でもいので設定していく。
	○生活習慣の確立	○生活指導の充実	○生活の決まりを理解させ、学校・地域社会で安全に過ごせるように必要な習慣を身に着けさせる。	①朝のあいさつ運動に取り組む。 ②児童理解研で情報を共有し、全校で一致した指導を行う。 ③学校の指導の重点や取組の状況を保護者にも知らせ、連携しながら指導に取り組む。 ④年間を通じ、「挨拶」「掃除」「室内歩行」の指導をする。 ⑤チャイムや時計で判断し行動させることで、時間を守る習慣を育む。 ⑥児童の安全確保のために、下校時刻を確実に守るよう共通理解を図り、徹底していく。	B	○五校連の生活・学習アンケートに取組、アクションプラン、ノー・メディアデーの取組と連携させて取り組んできた。あいさつは、時と場に応じたあいさつの仕方など課題はあるものの、進んであいさつをする児童が増えた。 ○月ごとの生活目標を全校朝会で話し、児童理解連絡会で確認、具体的な取組についての反省をしてきた。靴箱のくつを並べる取り組みでは、学級ごとにできたらシールを貼り、児童が自主的にくつならべに取り組むことができた。▲生活のきまりの定着が難しい児童には、保護者や関係機関との連携を図り組織で対応できる体制をつくっていくようにしたい。	◇PTA組織と連携し、家庭への周知・徹底を図る。 ◇決まり事を児童と保護者にも文書や懇談で徹底させる。 ◇全校朝会や学級活動等で学校の約束事を守る大切さについて取り上げ、理解を深める。 ◇下校時刻を確実に守るよう共通理解を図り、徹底していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

◇◇今年度のまとめ◇◇
◇「学校運営」に関しては、学校における「働き方改革」が課題である。教育の質の低下を防ぎながら、学校行事や評価活動を含めた教育活動の精選と効率化に取り組み、教員が児童と向き合う時間を確保したり授業の準備に充てる時間を生み出せるようにしたい。
◇「学力の向上」に関しては、基礎・基本の定着と指導方法の工夫改善についてはこれまでの成果を生かしつつ、継続して取り組んでいきたい。「主体的・対話的・深い学び」の視点に立った授業改善と指導方法の工夫に取り組んでいきたい。
◇「不登校をなくす取り組み」は、児童理解や家庭との連絡、関係機関との連携等の対応策をとり、取り組んできた。不登校傾向児童の把握と共に遅刻傾向児においても支援が必要な児童は、まだまだ多い。家庭や関係機関との連携を強め地道に関係づくりを進める必要がある。迅速で効果的な対応を行うため職員の研修を推進し、組織での対応力を強化していきたい。
◇「心の教育」では、校内研究において「豊かなかかわりを通して、自分を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成」をテーマに、授業実践に取り組んできた。また、「九州地区小学校道徳教育研究大会」の授業公開校として、これまでの道徳教育の取り組みを公開し高い評価を得ることができた。これまでの道徳教育への取組で、児童の自己肯定感を高めることができたことは、大きな成果と言える。全校縦割りの活動「オレンジタイム」や各種集会活動「GTO集会」は、異学年交流や自発的活動を高める効果があった。児童のお互いの努力や良さを認め合う取り組みは、児童の自己肯定感を高める取り組みとして効果をあげている。
◇「生活指導の徹底」では、指導と改善の繰り返しであったが、学校や社会のきまりを守る大切さを、児童一人ひとりに理解させる教育も大切である。今年度行われた「考えさせる生活指導」を次年度も引き続き取り組んでいきたい。

□□次年度必要とされる取り組み事項□□
【学校運営】
□教育活動の精選と「働き方改革」の推進。
【学力向上】
□「主体的・対話的・深い学び」の視点に立った授業改善と指導方法の工夫
□基礎・基本の定着と活用力を高める指導の在り方。
□読書活動の充実
【不登校をなくす】
□心の成長を促し、個々を大切にしたい支援の共通理解と実践。
□不登校傾向の早期発見、早期対応による未然防止とコーディネート機能の充実と組織的支援体制の強化。
【豊かな心とコミュニケーション力の育成】
□集団への所属感必要感や自己価値感の追求の在り方と実践。
□いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応の組織的に対応する指導体制の強化。
【生活指導の徹底】
□児童一人ひとりの危機回避能力の育成と、交通安全意識の向上に向けた学校と保護者、地域の方との連携。
□模範意識とけじめの向上。

●は共通評価項目、○は独自評価項目